

ひろしま県

# 高次脳機能センターだより

第4号

平成26年6月30日 発行



作業療法室の裏にある野菜畑でイチゴが実っていました。入院患者さんが水やりをして下さっているおかげで、キャベツやトマト、ナスなどがすくすく育っています。

## CONTENTS

### 特集 遂行機能障害

遂行機能障害とは……………②

遂行機能障害への対応について……………③

遂行機能障害 Q&A ……………④

### コラム

遂行機能 ―高次脳機能の集大成―……………④

利用者のページ……………⑤

関係機関ニュース……………⑥

ご利用案内……………⑧

## 就任のご挨拶

高次脳機能センター長 村田 芳夫



広島県高次脳機能センターは、平成18年5月1日に開設され、高次脳機能障害の評価・診断、障害

を有する方々のリハビリテーション・社会復帰までの一貫した支援体制を整備しております。

個別作業療法、言語療法、心理カウンセリングをはじめ、高次脳機能障害に特化したプログラムを専門スタッフが担当させていただき、地域支援センターや関係機関と連携しながら、利用される皆様の生活のお手伝いに尽力いたしております。平成25年度は、入院患者様延5、761名、外来患者様延7、685名、新規受診120名の方々にご利用いただきました。

「脳に障害をもつ方々とご家族が安心して生活できる社会の実現」を目指してこれからも私たちは日々努力を続けてまいります。

遂行機能障害は、約束の時間に間に合わない、仕事に約束どおりに仕上がらない、どの仕事も途中で投げ出してしまつといった、一連の目的ある行為の上での様々な問題を指します。遂行機能とは、①未来の目標を定め、②その目標を実現させるための段取りをたて、③目標に向かって実際に行動を開始・継続し、④目標に近づくように実行状況に対して適切な調整を行なう一連の過程をいいます。言い換えれば、目標を目指しながら、それにそつて目の前の問題を解決していく高次の機能であるといえます。

このように書いても、遂行機能障害という概念は、言葉自体に馴染みが薄く少し分かりにくい概念であるかもしれません。

例えば、私たちが夕食の準備をする時のことを考えてみます。冷蔵庫の中を眺めていたら、カレーのルーが目につき、「今日はカレーにしよう」と思いついたとします。そして、足りない材料を近くの店に買いに行くわけです。ジャガイモとニンジンがあるので、後は、鶏肉と玉ねぎと…家族4人分の材料をそろえて家に帰ります。さて、まずは材料を一口大に切り、玉ねぎをキツネ色になるまで炒めます。そして、ニンジン、ジャガイモを加えて、肉はいっ加えるんだっけ？カレーのルーの箱の裏に書いてある通りの水を加え、20分程度煮込んでいきます。野菜に火が通ったところで、ルーを投入。少し濃いか

も…。そつた、牛乳を少し足してみよう…

私たちが夕食を作る時は、このような思考や行動をとるわけです。当然のように思われるかもしれませんが、まず、「さあ、今から夕食の支度をしよう」と目標を定めること、これを感じなければ、夕食を作るという行動が起こらないわけです。遂行機能の過程で言えば、①未来の目標を定めるにあたります。

カレーを作ることに決めて、足りない材料が何かを考えたり、どの店に買いに行くのか考えたりする段階が②目標を実現させるための段取りをたてるという段階にあたります。また、材料を買いに行く時間が遅すぎると夕食の時間に間に合わなかったり、店が閉まっていたりしますね。このような時間の調整も必要となります。

もちろん、材料を買いに行った先で気が変わり、他のショッピングを楽しんでしまったり、材料を切り終った時点でTVに見入ってしまったたり、このような行動が起こると、カレーはいつまでたっても完成しません。③目標に向かって実際に行動を開始・継続する段階もとても大切です。

そして、美味しいカレーを作るために、一口大つてどのくらいの大きさだったっけ？キツネ色つてどれくらい炒めればいいんだろう？肉はどの時点で炒めたらいいんだろう？といった自分の中に明確な基

準のない事柄に対処したり、味が濃い時に牛乳で微調整をしたり、そのような段階が④目標に近づくように実行状況に対して適切な調整を行う、という段階です。

遂行機能の4つの段階のどこでつまづいても、カレーが出来あがらないことが分かっていたただけかと思えます。

遂行機能障害のある方の日常生活上見られる具体的な症状は、次のようなものがあります。

- これから実施することの見通しを立てられない
  - 計画を立てて物事を進められない
  - 時間の配分ができない
  - はじめに思いついたことを何も考えずに行動する
  - 指示しないと行動できない
  - 効率よい方法を選択できない
  - 動作手順が分からない（ように見える）
  - 物事を最後までやり遂げられない
  - 途中で話しかけられるとできなくなってしまう
  - 条件が増えると混乱してできなくなる
  - すぐにあきらめてしまう
  - するべきでないと分かっているをやってしまう
  - 同じ道具を止めるまで使い続ける
  - 目的にあわせて買った物ができない
- 日常生活の中で、毎日行っている慣れた活動であれば遂行機能障害は見えにくいかもしれませんが、慣れない活動を行った際には、症状がより見えやすくなります。

具体的な対応方法やリハビリ方法については次ページをご参照ください。



## 特集 2

# 遂行機能障害への対応について

遂行機能障害とは、身体機能・覚醒状態・注意機能・記憶機能等についての問題はないものの、目的ある一連の行動を効率的に行うために必要な計画・実行・監視などの能力などを含む複雑な認知機能の障害と言われています。知識や経験から判断ができることでも、実際に行動した際に、状況に応じた適切な行動が取りにくい状態といえます。

毎日行つ慣れた生活行為においてはこの症状は見えにくいかもしれませんが、慣れない活動や考えながら行爲を行つた際には症状がより見え易くなります。この症状を抱える方の多くは日常生活関連の問題は軽微であり、発症後も就労や学業を継続されていることを理解しておいてください。

就労や学業を継続している方の一例としては、普段やっている馴染みのある業務は卒なく実施できている場合でも、馴染みのない業務をさせると「段取りがうまくできない」「考えがまとまらず先に進まない」「配慮すべき注意点が抜けている」といったことが頻発している可能性があります。当センターでは、患者様にとって比較的馴染みのない「箱作り課題」を用いて、遂行機能を評価しています。



箱作りで遂行機能を評価します

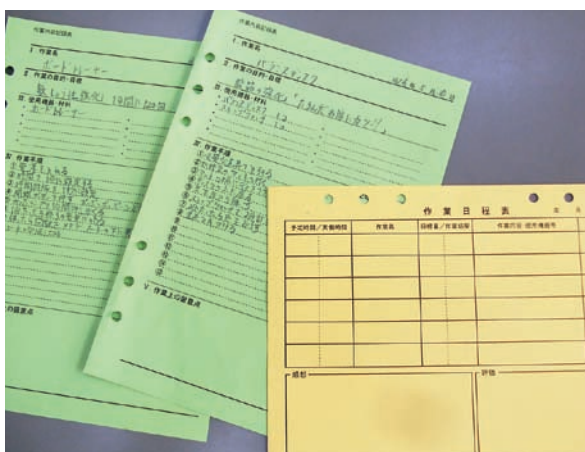
リハビリテーションスタッフが支援を実施するにあたっては、どのような状況の時にどのような「つまづき」がみられるのかを注意深く観察します。問題が生じる原因が注意機能や記憶機能の影響である場合も少なくないので、その場合は障害されている機能そのものを高めるトレーニングを実施すること、効果的なアプローチとなります。

そして遂行機能障害に対するアプローチという点に注目してみるなら、行動における問題点の焦点化を「対象者と援助者」で行ない（いわゆるフィードバック）、失敗しないための方策を立てることがアプローチの根幹になります。

こういった方へのリハビリテーションを実施するに際しては、対象者がどの程度自分の状態に対して

の気づきを有しているかが、大きなポイントとなります。対象者自身がある程度自分の状態を分かっている場合は、行動前に手順や行動を自己教授する方法や、対応法を事前にシミュレーションしたり言語化したり書きだしたりして、起こりそうな事態に備えておくことが有用です。一方、自分の状態に対して気づきが乏しい場合には、視覚的に確認できる外的補助手段（メモや手順書など）を援助者が準備したり、行き詰った際に援助者が声かけするなどの介入が必要になります。

気づきが乏しい方の特徴としては、間違っている状況が自分では判断できないので、対象者から周囲に援助を求めることが難しい場合があります。周囲に援助を求める（質問する）ことも問題解決を図るためには重要な手段となりますので、まずは信頼できる人と困った時に相談できる関係を作っておくことが有用です。



手順書と作業日程表

Q.

ノートや手帳にメモを取るのが下手で、すぐに書くスペースがなくなり、次々新しい手帳が必要になります。この調子だと、ノートや手帳がいくらあっても足りません。また、メモを書いたはずなのに、どこに書いたかすぐに分からなくなります。

A.

ノートや手帳のスペースに合わせた文字数や文字の大きさを考えて書くことができます。書くスペースを計画することが難しいので、そのため、使用するノートや手帳はスペースが区切られたものを使用したり、文字の大きさなどの例を示してあげると良いかもしれません。また、何をどこに書くのか練習したり、どこに書くべきなのか周囲の人がアドバイスしてあげると良いかもしれません。

Q.

一日家にいて特に何をしている訳ではないのに、とても忙しく感じ疲れてしまいます。そして気がつくと夕食の支度をしなければならぬ時間が過ぎてしまっています。

A.

1日にやるべきことが計画的にできるように、日課表などを作成し、一つずつ確実に取り組めるようにしましょう。日々、予定を立てる時間を設け、また予定通り進めることを意識付けるため実行し終わったらチェックできるような形態にしてみても良いかもしれません。

Q.

一緒にスーパーに買い物に行くと、店内を何回もぐるぐる回って、必要のないものまで購入してしまいます。

A.

買い物に行く前には、買う物リストを作り、購入する品物をグループによって分けるといった工夫が有効になってくると思います。余裕がある場合は店内の地図を作成し、その場で購入すべきものをまとめてみるのも良いかもしれません。

Q.

約束の時間に必ず遅れてきます。

約束を実行しようとするとき、どのくらい前に家を出るか、交通手段はどれを使うのが速いか等の判断がうまくできないのです。待ち合わせをするなどは、家を出る時間や交通手段などの計画を一緒に立ててみてはいかがでしょうか。そうすることで自分の行動に見通しがつき、ご本人も安心して行動できるようになるのではないのでしょうか。

Q.

その日の献立を考えるのに、すぐに時間がかかってしまつちます。

A.

何も無いところから考えるのは難しいので、「冷蔵庫の中にある食材で料理をする」などのルールを決めてみましょう。また、料理本などを活用するのも良いかもしれません。

## コラム

### 遂行機能——高次脳機能の集大成——

近藤 啓太

遂行機能障害を説明するために、ペンフィールドという有名な脳科学者のお姉さんの例を紹介することにしましょう。この症例は今から約80年前に脳科学雑誌「BRAIN」に紹介されました。彼のお姉さんは前頭葉に脳腫瘍ができたため、その切除手術を受けました。ペンフィールドはお姉さんが夕食の準備をした時のエピソードに、遂行機能障害の要素が詰まっていると語っています。「彼女は私と彼女の4人の家族のために、夕食を用意することになっていました。ところが夕食の時間になっても、用意はまるでできていなかったのです。いくつかの鍋はまだ火にかかっていましたし、サラダもできていませんでした。肉料理に至ってはまだ手もつけられていませんでした。彼女は、長い時間ひとり努力し続けていたのにそんな状態であることで自分自身当惑していました。

遂行機能には①目標の設定、②計画の立案、③目標に向かって計画を実際に行う、④自分の行動を調整・修正する、の4段階のステップがあります。どのステップが障害されても、作業遂行はうまくいきません。特に③、④のステップに関しては、実際の作業中に自分自身の行動した結果を逐一モニタリングし、未来を予測して、目標に向けて柔軟に適応的な行動に修正していくという高度な認知機能が必要となってきます。それができないといわゆる「習慣的」、「型通り」な行動しか行えないという結果となります。過去の経験とすり合わせるための「記憶力」、自分の行動を正しくモニタリングするための「注意力」、目標を頭にとどめながら作業を行うための「作動記憶」。いずれも遂行機能のためには重要な高次脳機能と考えられ、遂行機能は高次脳機能の集大成ともいえるかもしれません。

## 「ターニングポイント」

石田 達朗

私は2005年に千葉県の大学へと進学していましたが、途中で挫折。中退して実家のある広島県へ帰ってきました。

そんな私の人生は、2007年の11月24日を契機に大きく変わりました。

その日の私は、母親の話によると自動車学校の教習があるにも関わらず寝坊したらしく、大急ぎで身支度を済ませて家を出たそうです。その寝坊がきっかけとなり、私は普段通らない国道を通って、原付バイクで自動車学校へと向かっていったようです。

「国道を走らなければ」と後悔しても後の祭り。私は右折待ち中に時速60〜70km程の車に追突されました。

頭蓋骨骨折。瞳孔は完全に開いた状態。私が救急搬送された県病院に呼び出された両親は医師から、「緊急オペであっても身内の同意が

必要です。手術していいですか？しなければあと1時間で死にます。」と告げられたそうです。

両親は無論、承諾。そして、私は一命を取り留めました。

しかし、そこから大変でした。

記憶がほとんど定着しないのです。

「覚えておかなければいけなかった」ということですら覚えてない」と

いうことなどは、現在でも日常茶飯事。また、人の顔と名前を一致させて覚えること、道順を覚える

ことなども受傷以前ならば、むしろ特技の一つでした。それも、今では全く自信がありません。「2〜

3分前に名前を尋ねたばかりなのに、忘れてしまった」なんてことはよくあることです。それら以外では、物事の段取りを考えて行動することも自信がありません。

私は受傷前に比べて遥かに出来ることが少なくなりました。そして、最近になって意識し始めた障害が社会的行動障害です。手紙を一つ投函するにも、いちいちで心配になり郵便局で何度も手続きを確認してしまいます。家に一人でいるときは、家にかかってきた電話を取るができません。言われた内容を、後で伝えるべき相手にきちんと伝える自信がないからです。

事故から7年が経とうという現在でもこういった状態。退院したばかりの頃はもっと深刻で、高次脳機能障害という「見えない」「知らない」「分からぬ」という障害に向き合うことすら出来ていなかったように思います。私は将来を悲観していたのかもしれませんが。

しかし、そんな私に入院中に素敵な人との出会いがありました。

その人は、脳性麻痺という先天性の障害をバネに、幼少時より勉学に励み、頭脳労働者として社会参加していたと言います。私は大変に触発を受けました。

その出会いをきっかけに、私は大学への再入学を決意。高校時代の担任の先生を訪ねました。そして話は進み、受験。比治山大学で心理学を学ぶことになりました。

大学生活には、入学前より不安が多々ありました。しかし、私がある自分の言葉で周囲の人達に障害の存在を示したり、援助を求めたりすることで適応して過ごすことが出来たと感じています。

入院中は頻繁に障害に対する自己認知が不十分と指摘されていた私が、何だか他人みたいです。

現在は、「比治山大学大学院現代文化研究科臨床心理学専攻」で自分のように高次脳機能障害を抱え

る人達を支援して行けるようになるうと、勉学に励んでおります。

私は交通事故に遭って多くのものを無くしたかもしれませんが。

しかし、以前の大学を中退して目標を見失っていた私が、交通事故に遭ったことで再び目標に向けて頑張れるようになったということもまた事実です。

ここまで来れたのも、私のリハビリに関わって下さったスタッフの皆さん、友人、恩師、そして何より私をいつも支えてくれる家族がいたからです。

私は、そういった人達に恩返しをしていけるようになるためにも歩を止めません。

必ず自分の目標を掴んで恩に報いて参ります。



### 職員より一言

色々なことがあり、辛いこともたくさんあったと思いますが、それを受け入れながら、今、2度目の学生生活を楽しんでる石田さん。これからも私は、応援し続けたいと思います。

# 関係機関ニュース

## お知らせ

### 講演会「交通事故損害賠償にかかる

法的な視点を学ぶ」  
～高次脳機能障害の場合～

日時：平成26年7月19日(土)

午後2時～3時30分

講師：中井克洋氏（弁護士）

NPO法人高次脳機能障害サポートネットひろしま  
副理事長

場所：広島県立障害者リハビリテーションセンター

スポーツ交流センターおりづる2階会議室

交通事故に遭われ、高次脳機能障害と診断された方が、  
適正な補償を得るにはどうしたらいいか等、分かりやすく  
お話していただきます。  
是非、ご参加ください。

## 全国情報

### 平成25年度第2回高次脳機能障害支援 普及全国連絡協議会にて（H26／2開催）

国リハの26年度の事業計画には、①医療・福祉サービス  
提供、利用の均てん化に取り組む②全国の中央拠点として  
総合的な支援、情報発信を行う③小児の就学支援にも力を  
入れる、などがあげられました。

### 平成25年度第2回支援コーディネーター 全国会議にて（H26／2開催）

今回は移動支援がテーマで、自動車運転の評価の事例報  
告などがありました。

## お知らせ

### 計画相談支援について

障害者リハビリテーションセンター相談支援事業所（総合相談室）

安藤 公一

障害福祉サービスを初めて利用する際やサービス利用更新時には、「計画  
相談支援」サービスを利用する必要があります。平成27年4月からは全ての  
障害児（者）に計画相談を実施予定です。高次脳機能センターの利用者も、  
障害福祉サービス利用時には「計画相談支援」を利用します。

#### 計画相談支援とは？

特定相談支援事業者が行う、次のようなサービス内容のことです。

- ①ご本人・ご家族の生活へのご意向や悩みを聞きながら、「サービス等利  
用計画（案）」をご一緒に作成します。
- ②利用計画に沿ったサービスを提供するため、提供事業者と連絡調整しま  
す。
- ③福祉サービスが適切に提供されているか確認し、定期的に見直します。

#### 特定相談支援事業者とは？

計画相談を実施するために、市町や県から指定を受けた事業者です。各市  
町に問い合わせると紹介してもらえます。

\*広島県立障害者リハビリテーションセンターの特定相談支援事業者は、  
「障害者リハビリテーションセンター相談支援事業所」です。

#### 対象となる方

障害福祉サービスを利用する方が対象です。手帳未所持の方も医師意見書  
等で利用可能です。

#### 利用方法

市町の障害福祉担当窓口で計画相談の支給申請をします。その後、特定相  
談支援事業者を利用計画作成を依頼して、契約します（\*無料）。  
事業所に依頼せず、利用者や家族が利用計画案（セルフプラン）を作成す  
るのも可能です。

## 講演会 報告

『高次脳機能障害を理解する』  
よく知って上手に伝えよう

日時：平成26年5月25日(日)

午後1時～3時

場所：広島市中区地域福祉センター

主催：NPO法人高次脳機能障害サポート  
ネットひろしま

西広島リハビリテーション病院岡本隆嗣院長の高次脳機能障害についての用語解説、症状と対応、復帰支援など分かりやすい講義の後、元県立大学准教授本多留美氏のコーディネートのもと、岡本先生、法人理事長の濱田氏の対談が行われました。医療者と患者家族のコミュニケーションの取り方についてぜひいろんな意見を聞くことができました。

## 家族会 情報

脳外傷友の会第14回全国大会は  
島根県で開催

平成26年10月24、25の両日『地域での回復と自己実現』をテーマに松江市内で開催予定です。



## 施設紹介

就労移行支援事業所  
ウイングル広島紙屋町センター

### 【施設紹介】

就労移行支援事業所ウイングル広島紙屋町センター(以下：紙屋町センター)は、広島市中区立町の電停の目の前にあり、オフィスビルの3階にあります。

紙屋町センターには、「働きたい」「働いてみたい」「社会に出たい」という思いのある方が通って来られ、訓練を受けられています。

就労移行支援事業所とは、障害者総合支援法における障害福祉サービスの1つであり、2年間という限られた期間の中で就労を目指す障害のある方にサービスを提供する施設になります。通所頻度、通所時間、通所方法等は、個別に相談させて頂き、個々のペースに合わせ、就労に必要な訓練プログラムを受けて頂いています。

### 【センターの特徴】

紙屋町センターの特徴は、スタッフの前職が福祉業界以外からの出身者が多いことです。福祉業界、人材紹介会社、IT関係、技術職、サービス企業出身のスタッフでセンター運営しております。さまざまな社会人経験を持つスタッフが協力し合い、通所されているメンバーさんの就労を支援させていただいています。

紙屋町センターには、生活リズムの乱れている方、過去10年間で在宅で過ごしていた方、昼夜逆転している方等、就労まで時間のかかる方や先月まで就労していた方がおられます。また、18歳〜と年齢層も幅広いさまざまなメンバーさんが通所されています。共通しているのは、「働きたい。」という思いを持っていることです。

### 【定着支援】

就職後は、定着支援という形で就労継続をサポートさせて頂いています。定着支援とは、就労後、半年以上、就職した企業に働き続けられるように支援していくことです。

その方法の一つとしてOB会をおこなっております。

OB会では、2か月に1回程度、土曜日の午後に来させて頂き、就職後の悩み、生活の変化、辛いこと、楽しい事などを話し合っておく時間を設けています。皆、働く環境や働くスタイルは違えど、悩みは同じだったり、人に話す事で自分の抱えていた悩みが解決したり、すでにその悩みを通過した先輩から意見をもらったりと有意義な時間を過ごしてもらっています。

また、皆の前では、話せない悩みや、個別に対応が必要なケースも多くあり、その際は、別日で仕事後や休みの日などにスタッフと面談を実施し、必要に応じて、就職先へのアプローチも行なうこともあります。

### 【問合せ先】

〒730-0032

広島県広島市中区立町1-20

NREG広島立町ビル3階1-E

ウイングル 広島紙屋町センター

電話：082-54612213

FAX：082-54612214

平日：8時30分～17時30分

土、祝：9時～13時

ホームページ <http://italico.co.jp/>

問い合わせ [info\\_kamiyacho@italico.co.jp](mailto:info_kamiyacho@italico.co.jp)



## スタッフの紹介



作業療法士  
富田

事務員  
鏡味

心理士  
藤井

心理士  
宗澤

コーディネーター  
尾崎

臨床心理士  
澤田

副看護部長  
阿曾沼

コーディネーター  
高上

高次脳機能センター長  
村田

副高次脳機能センター長  
近藤

コーディネーター  
隅原

高次脳機能センター スタッフ一同

**メンバーも増えて、パワーアップ！  
団結力に磨きをかけて、頑張ります！**

## 編集後記

今日も、高次脳機能センターの窓の外に、沢山のツバメがすいすい飛んでいます。軒下の巣から巣立ったツバメが練習を重ねて、こんなにたくましく飛べるようになったのでしょう。私の好きな詩の中に「鳥たちが翼をためす／空の深さ」という一節があります。空は「高い」と思っていたので、「深い」と表現する発想の柔軟さ豊かさに凄いなと感心することしきりです。

この4月から高次脳機能センターのメンバーになった私達も、皆様のお役に立てるように発想を柔軟にして頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。

## 診療案内

### □ 診察の流れ

予約制になっております。予め電話でご予約の上ご来院ください。

#### ① 電話予約

**082-425-1455**(代表) 高次脳機能科受付 内線237

受付時間 月～金 9:00～17:00

専門のコーディネーターが対応します。

相談のみでもお受けします。

#### ② 高次脳機能科

脳神経に関する専門医が診察します。

(H26年度)

|                     | 月              | 火              | 水              | 木              | 金     |        |
|---------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|-------|--------|
| 9:00<br>～<br>12:00  | 村田 芳夫<br>近藤 啓太 | 村田 芳夫<br>近藤 啓太 | 村田 芳夫<br>近藤 啓太 | 村田 芳夫<br>近藤 啓太 | 近藤 啓太 | 音成 秀一郎 |
| 13:00<br>～<br>13:30 | 村田 芳夫<br>近藤 啓太 |                | 村田 芳夫<br>近藤 啓太 | 村田 芳夫<br>近藤 啓太 | 近藤 啓太 |        |

診察をスムーズに行うため、現在診療を受けている医療機関の主治医と相談のうえ、可能であれば紹介状・頭部CTやMRI等の画像をお持ちください。

#### ③ 入院・リハビリテーション・社会復帰支援・相談、家族支援

高次脳機能障害の病態に応じて医療と福祉の連続したサービスを提供します。